

## 工務店 NEWS

## 埼玉で新潟・住学とコラボ コミュニティの運営や協業を学ぶ

団体  
セミナー・イベント

## さいたま家づくりネットワーク

埼玉県内の工務店・設計事務所などで構成される、さいたま家づくりネットワークは2月21日、2024年度第4回定例会を開いた。講師として新潟の実務者コミュニティ・住学のメンバーが招かれ、約2時間に渡って運営方法や、メンバー同士の連携・コラボレーションについて紹介した。

同会は2012年、地域型住宅グリーン化事業の開始に合わせ、建材流通店・樹徳（埼玉県さいたま市）を事務局として



10人のメンバーが次々に登壇しながら住学を余すことなく紹介

発足。会長の橋本健二さん（高橋政雄設計事務所）は開会のあいさつで「埼玉で住学の皆様に会えるとは思っていませんでしたので楽しみにしている」と、講演への期待を述べた。

登壇したのは、住学を立ち上げたサトウ工務店・佐藤高志さん、ネイティブディメンションズ・鈴木淳さんの2人に加え、歴代校長・教頭のエスネルデザイン・村松悠一さん、にいつ住宅研究所・大平潤さん、ユーハウス工業・五十嵐直樹さん、ミライエ・平田未来さん、大庄・目黒剛志さん、支部長や委員長、書記長を務めるアオキ住建・渋谷拓矢さん、イロハスタジオ・石田泰弘さん、福井コンピュータアーキテクト・庄司英敏さん。10人が入れ替わり立ち代わりコミュニティの成り立ちや特徴、コミュニティ内の協業事例などを紹介した。

発起人の佐藤さんは、非住宅や公営住



宅、マンションリノベーション、BtoBのコンサルティングなど、自社が今まで手がけてきた仕事を紹介しながら「仲間がいることで新しい仕事に気づいた。多くの人と交流すると自分の得意不得意がわかる。誰かの“へこみ”もわかって、それが仕事になる」と、コミュニティの存在によって自社の領域が広がっていることを説明。さらに今後も協業に取り組み「営業が得意な会社に対価を支払い、（今は十分に訴求できていない）中規模の非

住宅木造建築にリーチしたい」という将来のビジョンを提示した。

参加者からは「お互いの強みと弱みをさらけ出しながら協業している点は、当会の今後の活動に生かしたい」といった声があがった。副会長の佐藤嘉夫さん（佐藤工務店社長）も閉会にあたり「目的はなくても建築が好きなたが集まるといろいろなことが実現することを改めて理解できた。我々ももう一歩踏み込んだコミュニティをつくりたい」と述べた。